

インターネットを用いた障害者情報サービス

1.はじめに

障害者福祉に関する情報をインターネットを用いて提供する試みは、海外の場合、早くも1980年代に盛んになっていた。一方、わが国においては1990年代に入ってから本格的な取り組みが見られるようになり、特に1995年は、メーリングリスト(ML)やWWWを用いた障害者福祉に関する情報サービスが相次いで新設された記念すべき年であった。本稿では、この分野の活用事例として、東北大学大学院情報科学研究科・情報システム評価学研究室で行っている障害者情報サービスについて述べる。

2.障害者情報サービス

(1) WWWを用いた情報サービス

情報システム評価学研究室のWWWのページに、障害者福祉に関する情報を蓄積し「障害者情報サービス」として1995年1月20日から公開している(http://www.dais.is.tohoku.ac.jp/~iwan/handicap_res.html)。現在までに世界50数か国からのアクセスを受けている。アクセス数をみると、4月までは1か月あたり1,000前後であったが、次第に増加の傾向を示し、12月には当初の4倍を超えるほどのトラフィックがもたらされている(表1)。

蓄積されているリソースの内容には以下の3点がある。(1)研究室で作成した報告書や参考資料、(2)国内の障害者福祉に関する参考資料、(3)国内外の他の障害者情報サービスへのリンク情報である。このうち、国内の関連では、個人や団体が運営する他の情報サービスへのリンクが31件あり、自治体の福祉情報や技術的な情報のリンクよりはるかに多い。これは、1995年に商用のプロバイダーを経由した参加の機会が増えたことが背景として考えられる。この年の後半から、障害者福祉に携わっている個人や民間団体の自由な情報発信が増加している。

国内での関連情報が増え出した頃からこのWWWページは、これらの情報をまとめる役割を求められるようになっていく。国内外を問わず、代理による情報のアナウンスもしばしば求められている。

(2) 障害者に関する相談活動

リソースとしては蓄積されにくい情報として、電子メールを用いて行われる相談活動がある。ニュースグループやMLに投稿されたり、電子メールで直接寄せられる質問に対し情報を提供する個別の相談活動である。1995年に行った主な相談を表2に示した。WWWによる障害者情報サービスが、海外からのアクセスも多く受けているからか、日本の福祉状況や障害者に関する資料を求められることが多い。1994年には海外の障害者からの相談に応じてオフラインミーティング*も実現したが、1995年は資料を郵送する対応が多かった。

オフラインミーティング
ネットワーク上で知り合った人たちと、
直接顔を合わせて情報交換する場。

このような相談活動は、今後のインターネットの利用を検討する上で注目すべきであろう。特に海外に対するまなごしを持つことは、国境に捉われないインターネットの特徴を活かした新たな文化をもたらす可能性が大きい。最近、その萌芽をしばしば強く感じている。

3.おわりに

障害者福祉におけるインターネットの役割として、近年この分野に定着しつつある「ノーマライゼーション」の理念の実現が挙げられる。この理念では、障害者が特別扱いされるのではなく、一般社会で普通の生活を送ることができ、「共に生きてゆく」条件を整えることが社会のあり方として望ましいとされる。障害者を取り巻く現実の社会環境には、(1) 物理的、(2) 制度的、(3) 文化・情報面、(4) 意識上などの障壁（バリア）があり、これらを改善する「バリアフリー社会」が求められている。これらのバリアフリーな環境を実現するために、インターネットの高度な技術は、少なくとも情報面において十分に貢献する資質を持っているといえる。福祉分野の情報サービスを充実させるという点でも、障害者が社会参加し、自己実現を図るための1つの手段を提供するという点でも、今後の検討の蓄積が期待される。

(小林 巖)

参考資料

- 1) 小林巖・布川博士：コンピュータネットワークの福祉的利用に関する調査研究—障害者情報サービスの現状について平成5年度東北インターネット協議会委託研究報告書 (1994)
- 2) 小林巖：障害者をめぐるインターネットの利用 IAJ News, Vol. 2, No. 4, pp. 6-15 (1996)
- 3) 小林巖：インターネットにおける障害者情報サービスの現状(2) 日本特殊教育学会第33回大会発表論文集, pp. 950-951 (1995)
- 4) 長瀬修：物理的距離が言い訳にならない社会—オランダから インターネット利用教育会：インターネットでわかったこと・できたこと, pp. 209-220, 技術評論社 (1996)
- 5) 総理府(編)：障害者白書(平成7年版). 大蔵省印刷局 (1995)

1月	513
2月	1,104
3月	983
4月	980
5月	1,345
6月	1,641
7月	1,940
8月	1,814
9月	2,575
10月	2,920
11月	3,628
12月	4,221

(注) 1月は1/20から1/13までの期間

表1 月ごとにみた1995年のリクエスト数

国内	ボランティア活動の相談
国内	海外の障害者情報の問い合わせ
海外	阪神大震災に関する問い合わせ
海外	日本の障害者に関する資料の請求
海外	障害者に対する接し方の相談

表2 主な相談内容 (1995年)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp